

大規模事業

キャンパス移転計画

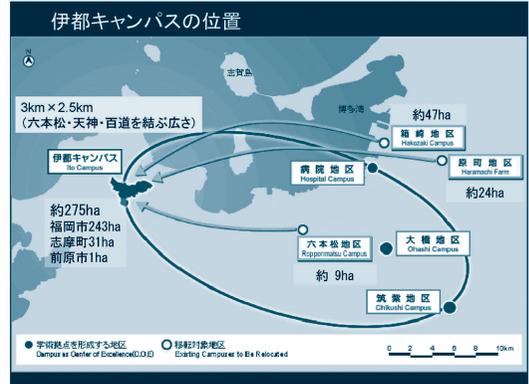
●移転の経緯

九州大学は、専門教育と全学教育の統合・連携などの教育研究上の要請とキャンパスの老朽・狭隘改善を含めた安全性等の確保のために、1991(平成3)年10月、福岡市西区元岡・桑原地区、前原市及び志摩町(H22年1月より糸島市)にまたがる新(伊都)キャンパスへの統合移転を決定し、「時代の変化に応じて自律的に変革し、活力を維持し続ける開かれた大学の構築」と「それに相応しい研究・教育拠点の創造」をコンセプトに、「アジアを重視した世界の拠点大学」、「日本を代表する基幹総合大学」、「都市と共に栄え、市民の誇りと頼りになる大学」を目指して整備を進めてきました。

●伊都キャンパスの概要

伊都キャンパスは、東西約3km、南北約2.5km、275ヘクタールの広大な敷地です。博多湾の西、糸島半島のほぼ中央に位置しており、福岡の中心、天神から約15km、公共機関で約40分の距離にあります。

都市の近郊という利便性を持ちながら、玄界灘に望む豊かな自然が残された静謐な環境にあります。また、ここは、古くから朝鮮半島などからの往来が盛んであったことを示す遺跡が数多く存在する歴史

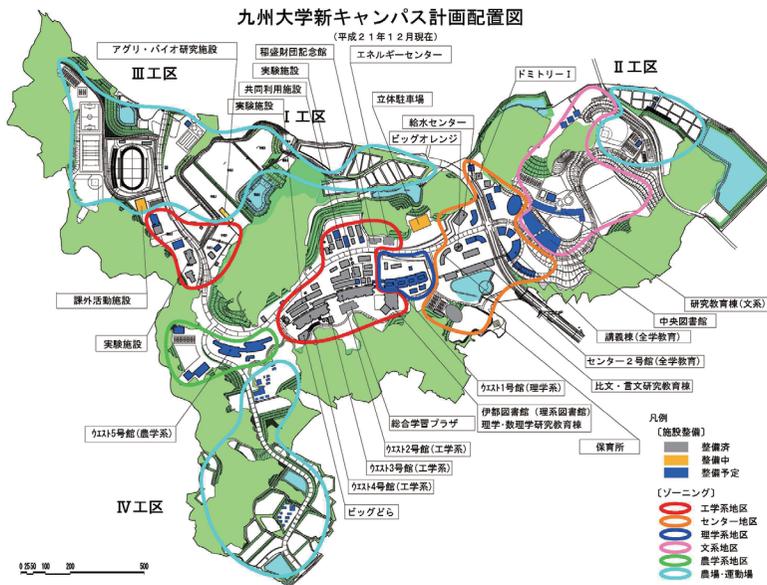


ある地域です。

●移転整備計画

この伊都キャンパスに、箱崎地区(文系、理学系、工学系、農学系等)、六本松地区(全学教育等)、原町地区(附属農場)の3キャンパスを統合移転し、人口約2万人、床面積約50万㎡の施設を計画しています。

2001(平成13)年3月には、長期にわたるキャンパスづくりを一貫して行うための指針である「九州大学新キャンパス・マスタープラン2001」をまとめ、これに沿って各地区の基本設計、建築設計、建物工事を進めています。



●移転スケジュール

移転の第Ⅰステージとして、2005(平成17)年及び2006(平成18)年には、工学系の学生・教職員約5千2百人が移転を完了しました。

移転の第Ⅱステージとして、2009(平成21)年4月には、全学教育、比較社会文化学府・研究院及び言語文化研究院の学生・教職員、同年10月には数理学府・研究院等の学生・教職員、併せて約5千6百人が移転して、生活支援施設関係者等を含めて1万2千人が集う九州大学で最大のキャンパスとなっています。

今後、第Ⅲステージとして、理学系、情報基盤研究開発センター、中央図書館、文系、農学系等が2019(平成31)年までに移転を完了する予定です。

●学術研究都市構想に基づく伊都キャンパス周辺のまちづくり

伊都キャンパス周辺では、伊都キャンパス誕生にあわせてJR九大学研都市駅が開業するなど、九州大学学術研究都市構想に基づくまちづくりが進んでいます。

伊都キャンパスの隣接エリアである元岡地区では、土地区画整理事業による拠点づくりが着実に進められており、2008(平成20)年4月には福岡市産学連携交流センターがオープンして共同研究や連携交流が盛んに行われています。さらに数年後には、民間企業の研究開発施設、学生の住まい、商業施設等の建設が予定されています。

また、キャンパス南口に位置する泊カツラギ地区(糸島市)などでも、学生の住まいや研究所施設用地の整備が着々と進められています。

移転スケジュール (平成21年12月)

時期	第Ⅰステージ (平成17～19年度)	第Ⅱステージ (平成20～23年度)	第Ⅲステージ (平成24～31年度)
移転人口累計	約5,200人	約10,800人	約18,700人
伊都キャンパスへの移転部局等	<ul style="list-style-type: none"> ■工学系Ⅰ、Ⅱ ■理系図書館 	<ul style="list-style-type: none"> ■全学教育 ■比較社会文化学府・研究院 ■言語文化研究院 ■数理学府・研究院 ■理学部数学科 ■伊都図書館(理系図書館) ■高等教育開発推進センター他 	<ul style="list-style-type: none"> ■理学系(H26) ■情報基盤研究開発センター(H27) ■中央図書館(H29) ■文系(H29、30) ■農学系・その他(H31)

(※第Ⅲステージ移転年度は、財政状況により変動することがあります。)

★もっと詳しく知るには

- ・九州大学伊都新キャンパス情報
<http://suisin.jimu.kyushu-u.ac.jp/>

◆問合せ先

- ・施設部整備計画課第一計画係 092-642-3862

百周年記念事業

九州大学は、明治44年(1911年)に九州帝国大学として創設されて以来、平成23年(2011年)に百周年を迎えます。これまでの百年にわたる歴史と伝統を礎に、「知の新世紀を拓く」をスローガンとして、百周年記念事業を実施します。本学が人類の希求する知を先導し、また新時代のフロンティアを切り拓く人材を育成するため、全学を挙げて本事業に取組むことといたします。

○百周年記念事業について

百周年記念事業では、九州大学基金(仮称)を設立します。

基金は、「一般基金」と「特定基金」から構成されます。寄附をいただいたときに用途を特定されていないものを「一般基金」とし、以下のような本学の教育・研究を充実させるための事業へ活用することを予定しています。

- ・教育・研究の充実とそのための環境整備の支援
- ・奨学金等の充実
- ・国際・社会・文化・体育活動等の支援
- ・産学連携その他社会連携活動等の支援
- ・卒業生等との連携活動等の支援

- ・国際交流及び留学生の支援
- ・キャンパス内の環境整備・美化の支援
- ・その他

また、寄附をいただいたときに用途を特定されたものを「特定基金」とし、例えばA研究センターの運営、B寄附講座の運営、C研究分野の教育研究支援など、指定された目的に基金を活用します。

なお、この基金を、本学が百周年を迎えた後も継続して寄附を受け入れる受け皿とし、本学卒業生、教職員、企業・団体など各方面からのご支援をいただきながら、上記の事業をさらに展開していく予定です。

○百周年記念事業募金への取組みについて

本学の新たな百年を展開し、独自の教育・研究環境を整えるためには、自己資金として、基金を拡充し、十分な資金により各事業を実施することが不可欠です。

現在、本学では百周年記念事業の募金活動を行っており、卒業生、退職者、名誉教授ほか、皆様から多大なご支援をいただいています。また、学外組織である「九州大学百周年記念事業推進会」のご協力を得ながら企業・団体等の皆様へも寄附をお願いしており、昨今の厳しい経済情勢にもかかわらず、温かいご支援をいただいています。

このような状況ではありますが、さらに基金を充実させるためには、学内教職員の皆様からのご支援がなくてはならないものです。本事業が実りあるものになるよう、学内関係者一同が連携しながら推し進めていきます。

*九州大学百周年記念事業への教職員等の募金について

1. 募金の口数

1口1万円とし、何口でも結構です。

参考までに下記の口数を目安としてお示しします。教職員の皆様のご理解とご協力をお願いします。

(役員、教員)

総長200、理事100、副学長50、部局長42、教授27、准教授16、講師15、助教・准助教6(事務系、技術系職員等)

部長級23、課長級15、補佐級9、係長級6、主任級5、係員級4

学術研究員等(目安としての口数は特に定めておりません)

2. 募金の期間

平成23年3月までですが、その後も九州大学基金(仮称)として継続して受入れる予定です。

3. その他

(1) クレジットカード(インターネット)からの振込みもできます。

百周年記念事業ホームページのクレジットカードご利用案内

<https://kifuform.kyushu-u.ac.jp/explain.html>
上記のURLから申込みください。

(2) 分割による払込みもできます。

(3) 九州大学百周年記念事業への寄附を含め、本学へ寄附をした場合は、所得税法による所得控除(寄附金控除)を受けることができます。

また、自治体の条例で本学への寄附金を対象として指定している場合、本学に寄附した翌年の1月1日に当該自治体にお住まいの方は、個人住民税(都道府県民税及び市町村民税)の寄附金税額控除が受けられます。

○本学への寄附金を対象として指定している主な自治体(平成21年12月調べ)

- ・福岡県、福岡市、柳川市、八女市、みやま市、篠栗町、須恵町

※その他の自治体については、各自治体の税務担当課へお問合せください。

なお、上記の所得税及び個人住民税の軽減を受けるためには、寄附した翌年の3月15日までに所轄税務署で確定申告が必要です。

★もっと詳しく知るには

- ・九州大学百周年記念事業ホームページ
<http://100th.jimu.kyushu-u.ac.jp>
- ・国税庁ホームページ(所得控除関連)
<http://www.nta.go.jp/taxanswer/shotoku/1150.htm>
- ・福岡県ホームページ(寄附金税額控除関連)
<http://www.pref.fukuoka.lg.jp/f04/jyourei-kifukin.html>

◆問合せ先

- ・総務部百周年記念事業推進課
TEL: 092-642-7397
e-mail: 100thaniv@jimu.kyushu-u.ac.jp